

仕手株投資の「落とし穴」： 惨劇を避けるための生存戦略

利益を追う前に、まずは「損失」の正体を知る

Noto Serif JP, Regular

投資に損失はつきものだが、仕手株における失敗は
「悲惨」な結末を招く恐れがある。

Noto Serif JP, Regular
Based on insights from Shitekabu.com

損失は避けられない。だが、悲劇は回避できる。

The Reality



損失 (Loss)

投資において損失は必ず発生するものであり、「損失なくして利益はない」。

The Tragedy

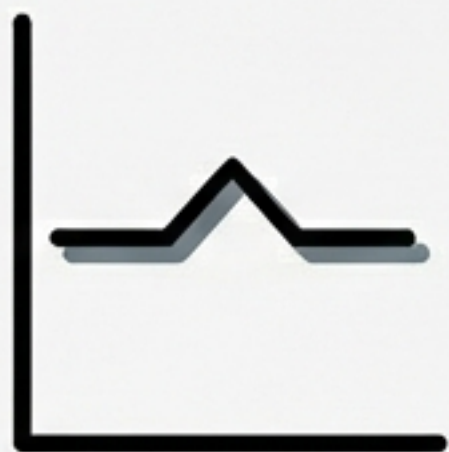


悲劇 (Tragedy)

仕手株投資においては、無知が致命的なダメージ（退場）につながる。

落とし穴の場所さえ知っていれば、損失を最小限に抑えることができる。
「まずは知ることから」

待ち受ける3つの損失パターン



01

初動と勘違い

早とちりの飛びつき買い



02

大暴落の
リバウンド狙い

過去の栄光にすぎる失敗



03

MAX RISK

上昇し切った後の
飛びつき

損失拡大の最大要因

特に3つ目の「上昇後の取引」は、最もリスクが高く、利益をすべて吹き飛ばす危険性がある。

罠その1：「初動」という幻影



低位株やもみ合い銘柄がほんの少し上昇した瞬間、「始まった！」と反応して飛びついてしまう。

現実: それは本当の初動ではない。仕手筋（投資ファンド）が株を集めるための「ただの買上げ」に過ぎない。

結末: 目的は株価を上げることではないため、一時的な上昇の後、株価はすぐに戻る。

罠その2：大暴落のリバウンド狙い

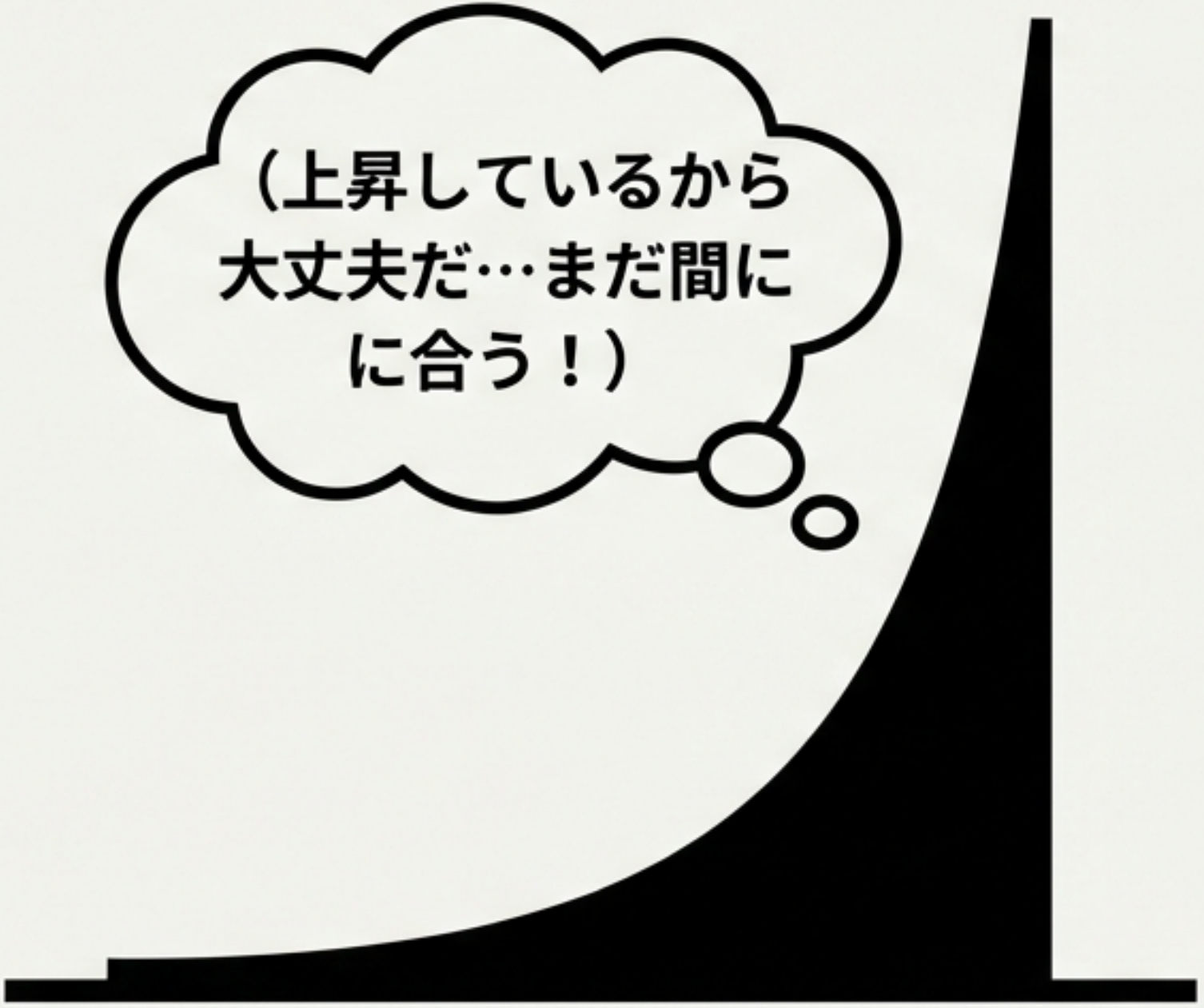
「あんなに上がったのだから戻るはず」という思い込み。過去に成功体験がある人ほど陥りやすい。

現実: 株は毎回同じ動きをするわけではない。

結末: リバウンドはわずかで、その後は下落し続ける。保有期間が長くなるほど、損失が雪だるま式に拡大する。



罣その3：高値掴みの誘惑



（上昇しているから
大丈夫だ…まだ間に
合う！）

仕手株投資の大原則は「初動以外で取引しない」こと。

しかし、上昇中の銘柄は魅力的に見え、安心感すら与えてくる。

「もっと上昇するはずだ」という心理が働き、上昇しきった銘柄に飛びついてしまう。

利益が瞬時に消滅する恐怖



ハイリスク・ハイリターンの「ハイリスク」の正体は、この「高値づかみ」である。

仕手株の上昇は恐ろしいほど早い、崩れるのも一瞬。

せっかく積み上げた利益も、この一度のミスですべて吹き飛んでしまう。

「損失拡大のリスクが最も高い」 のがこのパターンである。

なぜ、分かっているにも飛びつくのか？

欲 (Greed)

利益をみすみす
逃したくない。



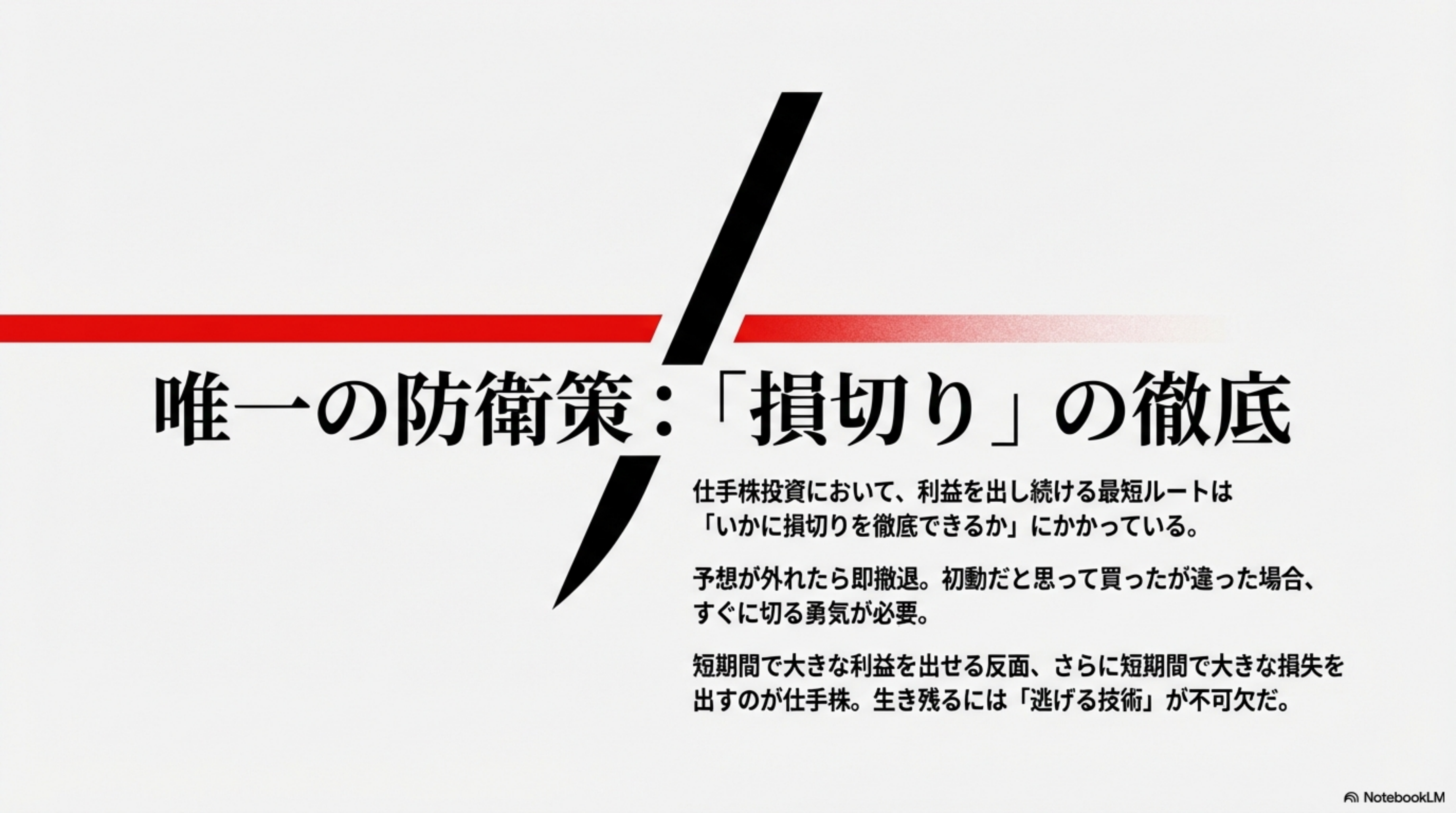
焦り (Impatience)

早く利益を出したい、置
いていかれたくない。

慢心 (Overconfidence)

「まだ上がるだろう」という
根拠のない思い込み。

仕手株は気持ちが高ぶりやすい。大きな利益が出た後こそ、
冷静さを失い、最も危険な罠に足を踏み入れやすくなる。



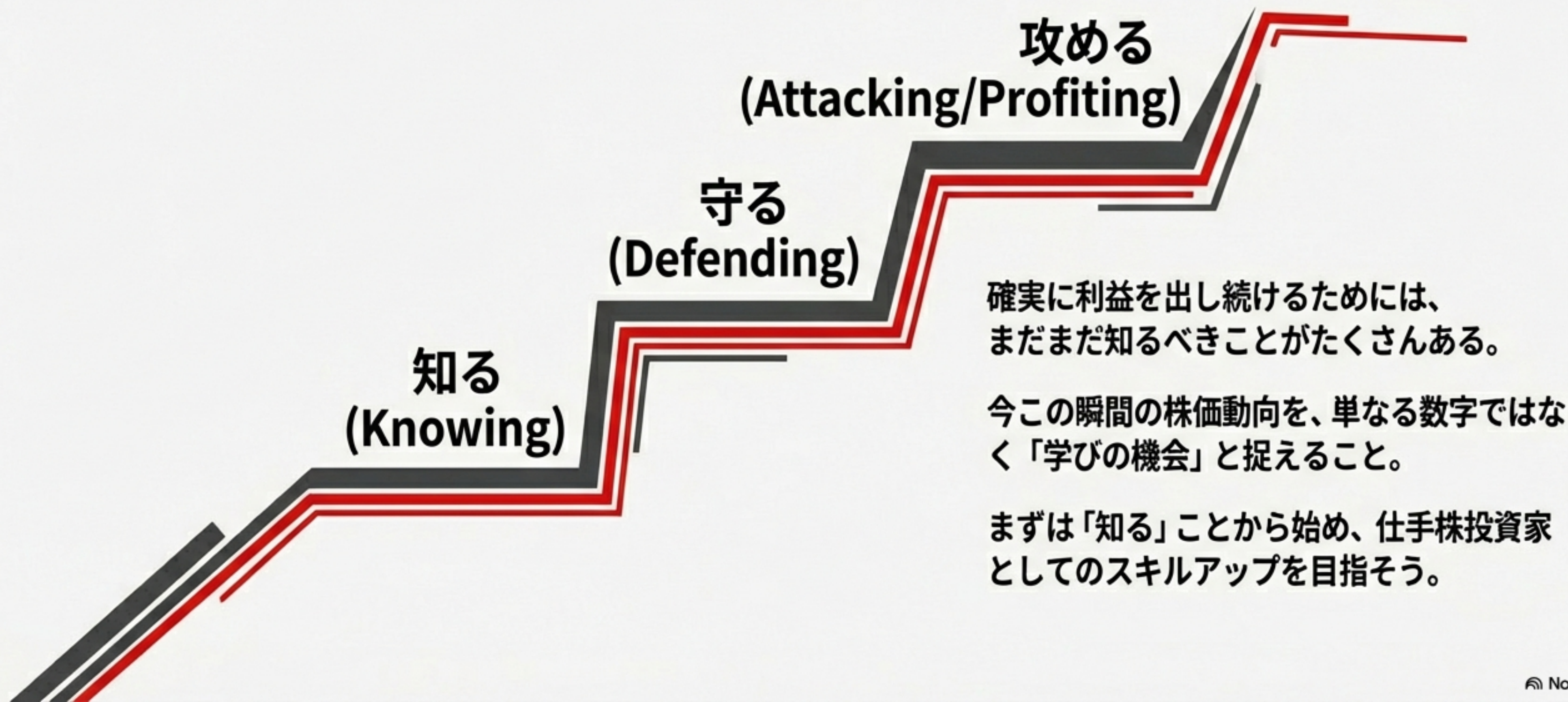
唯一の防衛策：「損切り」の徹底

仕手株投資において、利益を出し続ける最短ルートは「いかに損切りを徹底できるか」にかかっている。

予想が外れたら即撤退。初動だと思って買ったが違った場合、すぐに切る勇気が必要。

短期間で大きな利益を出せる反面、さらに短期間で大きな損失を出すのが仕手株。生き残るには「逃げる技術」が不可欠だ。

投資を「ギャンブル」から「スキル」へ



仕手株.コム

仕手株で利益を出すことに特化したサイト

- 毎日の株価動向分析
- 仕手筋（投資ファンド）の企みや傾向の解説
- 具体的な取引タイミングの公開（企画）

<https://仕手株.com>